

金属行人

「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」ということわざがある。偉業

を成した人は亡くなった後も語り継がれる意味だ▼先日、首都圏のある銅合金の鑄鍛造メーカーを取材した。同社は大手自動車メーカーとF1カーのエンジン部材を共同開発。エンジンの耐久性の鍵を握る部分で、放熱性と強度が高い合金を供給し、共同特許を取得した。自動車メーカーの要望に応えながら、熱処理などさまざまな条件に工夫を凝らしたその合金素材は2006～08年に採用され、海外グランプリでの優勝にも貢献している▼開発の中核を担った役員は特許の取得を前に病に倒れ、亡くなった。だが、先月受領した特許証には発明者としてその名前が刻まれている。同社ではレプリカを夫人に贈って故人への感謝を込めた▼残したのは特許だけではない。先日同社を訪れた際に、工場で黙々と働く一人の青年を紹介された。検査工程で熱心に製品を見つめる目が印象に残った。社長に話を聞くと、亡くなった開発担当役員の息子さんだという▼今、素材では海外との競争が激化している分野が多い。相手の圧倒的なコスト競争力に日本勢が立ち向かうための武器は、技術と品質に尽きる。その源泉になるのは間違いなく人だ。自らの名前や技術に加えて、会社の将来を支える人をも残したその姿勢に、強い感銘を受けた。